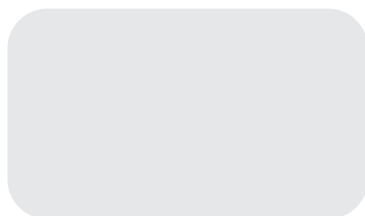


問 1

休日に外出した人は、全体の
何パーセント？



予想して開けてみよう

答え

55.6%

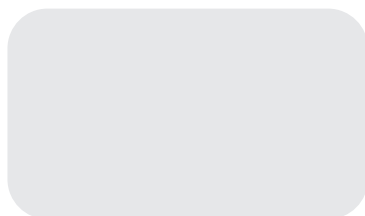


もっと詳しく

外出率は、都市の賑わいを測る一つの指標です。
松山では、約半数の人が休日を家から出ずに過ごしています。
また、平日の外出率は72.2%ですが、2007年調査では
84.7%でした。つまり、以前と比べて、外に出かける機会が
減少しています。松山の外出率は、仙台や熊本といった他の
地方都市と比較しても、低くなっています。

問 2

19～25 歳の若者のうち、休日
に外出した人は何パーセント？



予想して開けてみよう

答え

49.3%



もっと詳しく

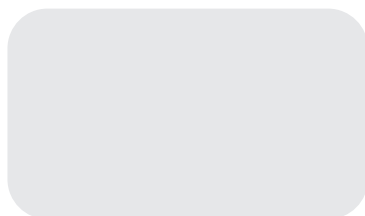
若者の休日の外出率はさらに低く、49.3% でした。さらに、外出した人が、ある目的ので出発地 A から目的地 B まで移動する回数（トリップ数といいます）も、人口全体と比べて小さい（平均 2.65 回）です。

つまり、松山の若者は休日に外出しない傾向にあり、外出しても回遊しない＝若者のまち離れが進んでいます。

問 3

子育て世帯の大人※のうち、休日に外出した人は何パーセント？

※ 18 歳以下の子どもがいる世帯の 25 歳以上の個人



予想して開けてみよう

答え

63.7 %



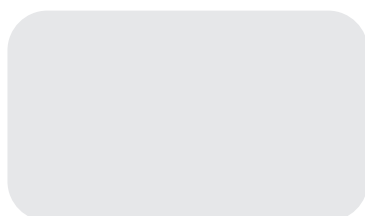
もっと詳しく

若者の休日の外出率（49.3%）と比べて、子育て世代の外出率は約 14% 大きいです。外出した人が、ある目的ので出発地 A から目的地 B まで移動する回数（トリップ数）も、人口全体と比べて大きく（平均 3.15 回）、子育て世帯は休日に活発に活動しています。その要因のひとつに、多くの送迎トリップが行われていることが挙げられます（問 12 へ続く）。

問 4

子育て世帯が食事・娯楽・レジャーでよく訪れる順に並び替えてみよう。

1. 松山市中心部（市駅、大街道） 2. 衣山 3. 松前町



予想して開けてみよう

答え

3→1→2



もっと詳しく

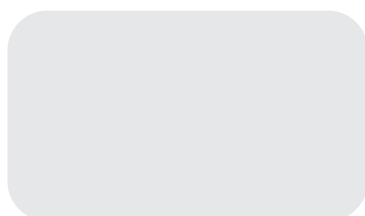
子育て世代の食事・娯楽・レジャーの目的地は、25～59歳の人口全体と比べて、松山市中心部（市駅、大街道）の割合が減少し、松前町、東温市、砥部町の割合が増加します。

このことから、中心部には子育て世代にとって魅力的な目的地が少なく、郊外のショッピングセンターやレジャー施設が選ばれていると考えられます。

問 5

19～25 歳の若者が食事・娯楽・レジャー
でよく訪れる順に並び替えてみよう。

1. 松山市中心部（市駅、大街道） 2. 衣山 3. 松前町



予想して開けてみよう

答え

1 → 2 → 3

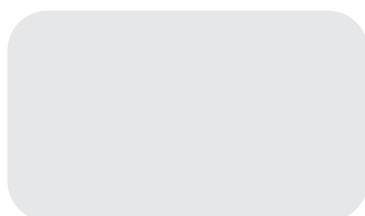


もっと詳しく

若年層の食事・娯楽・レジャーの目的地は、他の年代と比べて、松山市中心部（市駅、大街道）、道後、衣山、東温市が多い。一方、久米、高井、市坪、森松等の幹線道路沿いの店舗が多い地区への来訪は少ない。中心部は、近くに学校や企業が多く、友人と集まりやすいですが、若年層の外出率や移動回数は減少しており、中心部の更なる魅力化が求められます。

問 6

すべての移動のうち、自動車、
自転車、鉄道の占める割合は
それぞれ何パーセント？



予想して開けてみよう

答え

自動車	63.9 %
自転車	10.3 %
鉄道	2.2 %

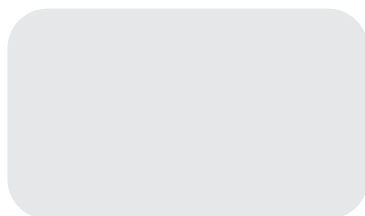


もっと詳しく

松山は車社会で、全移動の 6 割以上を車が占めます。その傾向は近年強まっており、2007 年と比べて、車の割合は 13% 増加しました。その分、自転車が 10%、徒歩が 3% 低下しました。バスや鉄道は、限られた人にしか使われていません。しかし、気候変動や公共交通の廃線などの危機を前に、利用者も事業者も行政も、現在の行動や施策を改善していく必要があります。

問 7

200m 未満の移動のうち、自動車による移動は何パーセント？



予想して開けてみよう

答え

30.5 %

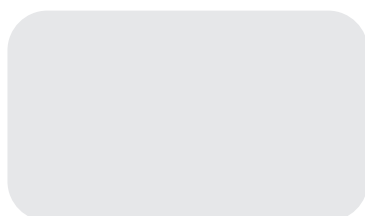


もっと詳しく

200m 未満の移動の 3 割は自動車による移動です。
世代別に見ると、19～25 歳は 20%、70 歳以上の高齢者は 25% ですが、30～60 歳代は 30～40% と自動車の割合が高く、自動車の利用が習慣化していると考えられます。

問 8

19～25 歳の全移動のうち、自動車、自転車、鉄道の占める割合はそれぞれ何パーセント？



予想して開けてみよう

答え

自動車	45.2 %
自転車	20.2 %
鉄道	5.2 %



もっと詳しく

19～25 歳の若年層の移動に占める自動車の割合は、人口全体に比べて約 19% 小さい。その分、自転車の割合が約 10%、原付・二輪が約 9%、鉄道は約 3% 大きい。

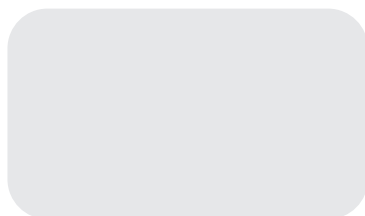
しかし、その後年齢が上がるにつれて、自動車の割合が増加し、30, 40, 50 代で全移動の約 70% を占めます。

ライフステージが変化しても、サステイナブルな移動手段を利用し続けられるような都市と交通を考える必要があります。

問 9

70 歳以上の高齢者のうち、休日
に外出した人は何パーセント？

ヒント 人口全体では 55.6%



予想して開けてみよう

答え

45.8%



もっと詳しく

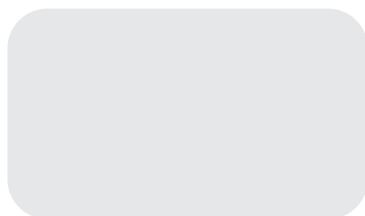
外出率は、都市の賑わいを測る一つの指標です。

70 歳以上の高齢者の外出率は、全人口の外出率より約 10% 小さく、45.8% でした。一方、外出した人が、ある目的で出発地 A から目的地 B まで移動する回数（トリップ数）は、平均 2.68 回で、19～25 歳より大きいです。活発に活動する人と、そうでない人で生活パターンに違いがあると言えます。

問 10

70歳以上の高齢者の移動のうち、
自動車の占める割合は？

ヒント 人口全体では 63.9%



予想して開けてみよう

答え

60.3%



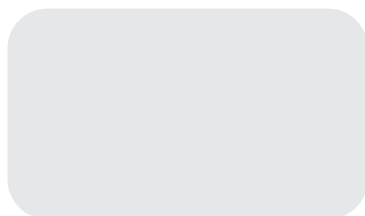
もっと詳しく

意外なことに、70歳以上に限っても、人口全体的場合と、
自動車移動の割合はほとんど同じです。

公共交通はほとんど使われておらず、自動車に依存した移動
と生活が営まれています。

問 11

70 歳以上かつ免許を返納した人のうち、休日に外出した人は何パーセント？



予想して開けてみよう

答え

33.0 %



もっと詳しく

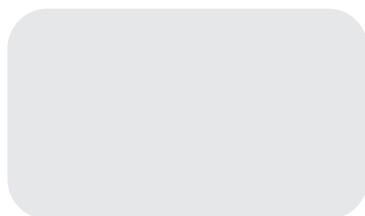
免許を返納した人（70 歳以上）の外出率は著しく低く、返納していない 70 歳以上と比べて、13% 小さいです。

主な移動手段は、自動車の同乗に加えて、近距離は徒歩、長距離はバス・鉄道・タクシーが使われています。そのため、デマンド交通やコミュニティバスによるきめ細やかな交通と、自宅や交通拠点に近い場所の交流施設の整備が、外出を促すために重要です。

問 12

子育て世帯の大人※のうち、平日
に送迎をする人の割合は？

※ 18 歳以下の子どもがいる世帯の 25 歳以上の個人



予想して開けてみよう

答え

18.8%



もっと詳しく

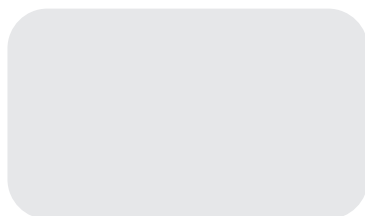
送迎の所用時間は、20 分以内の移動が 4 分の 3 を占めます。
また、送迎の移動のうち、72% は女性によって行われます。
送迎に用いられる交通手段は、84% が自動車です。

女性の送迎負担を減らし、子育て家庭の自動車依存の生活を変え
るような、都市計画はどのようなものでしょうか。

問 13

年収 200 万円未満の 25～59 歳のうち、休日に外出した割合は？

ヒント 25～59 歳全体では 60.6%



予想して開けてみよう

答え

52.9%



もっと詳しく

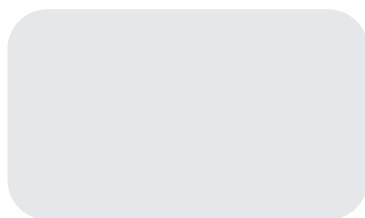
年収が 200 万円未満の 25～59 歳の人の休日の外出率は、25～59 歳全体と比べて、8% 程度低いです。

移動の交通手段は、徒歩と自転車の割合が 25～59 歳全体と比べて、合わせて 20% 程度高く、自動車の分担率が低いです。長距離の移動やレジャー目的の移動では、鉄道・バスが多く使われており、公共交通がそうした移動を支えています。

問 14

外出に困難のある人※のうち、 休日に外出した割合は？

※ 外出について、「多少はあるが1人で外出できる」「一部で介助者が必要」「常に介助者が必要」と答えた人



予想して開けてみよう

答え

28.7 %



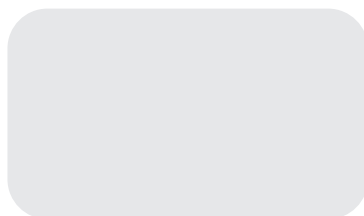
もっと詳しく

外出に困難のある人の外出率は 28.7% と著しく低い（人口全体では 55.6%）。

移動の交通手段は、他人の運転する自動車への同乗が主です。長距離の移動や通院目的の移動は、タクシー・鉄道・バスも使われる傾向にあり、このような交通が移動を支えています。

問 15

引っ越し前後で、住む場所の
移動距離はどれくらい？



予想して開けてみよう

答え

3.6 km (中央値)



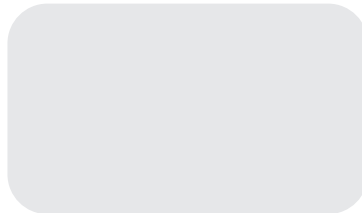
もっと詳しく

多くの世帯は、元の住宅から 5km 以内の近場に転居します。結婚や子供の成長による転居の場合、移転距離が短いですが、就職・就学・転勤・転職や、生活の利便性の問題を理由とする転居は、移転距離が大きい傾向があります。

問 16

中心部と比べて、郊外への転入で多い理由は？

- 1. 結婚による独立
- 2. 就職・就学
- 3. 住居・地域の問題
- 4 子供の成長



予想して開けてみよう

答え

1, 4



もっと詳しく

郊外部では、結婚や子供の成長を理由とする転入が多い。

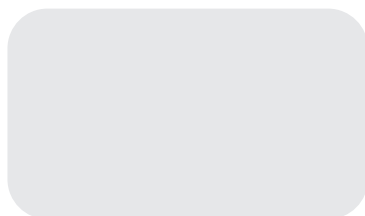
一方、中心部では、就職・就学による転入や生活の利便性を求める転入が多い。

結婚や子育てを期に、元の家から近く家族から支援を受けられる、郊外へと転居するというパターンが見られる。

問 17

中心部と比べて、郊外からの転出で多い理由は？

1. 結婚による独立
2. 就職・就学
3. 住居・地域の問題
- 4 子供の成長



予想して開けてみよう

答え

1, 2, 3



もっと詳しく

郊外部では、結婚による転入も多いが、同時に、結婚や就職・就学に伴う世帯分離による転出も多い。また、山間部など交通の不便な地域では、住宅の問題や生活利便性を理由とした転出も見られる。

結婚や子育てを期に郊外へと転入した世帯から、子供が独立し、今後は郊外部の少子高齢化が進行すると考えられる。